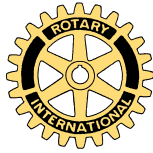
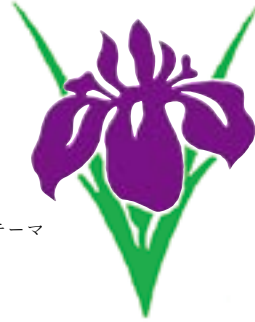


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566) 22-2111
FAX (0566) 25-2111
メール kariyar@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 太田 宗一郎
幹事 杉浦 文雄
会報委員長 小川 耕示

2010 ~ 2011年度 国際ロータリー Ray Klinginsmith (レイ・クリンギンズミス) 会長テーマ

Building Communities Bridging Continents 地域を育み、大陸をつなぐ

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2711回例会プログラム

[当年度=30回目；当月=2週目]

2011年（平成23年）3月14日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……我等の生業
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 副会長挨拶並びに会長報告
8. 新入会員挨拶……稲垣^{いながき}俊彦^{としひこ} 会員
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(3/21) ……休 会 (法定休日)
(3/28) ……
・新入会員アワー 浅井 裕章 会員
・「帰国報告」青少年交換学生
野村早季子 様

- 13:00 13. 本日のプログラム
卓話 「私のロータリー感」
講師 前田 孝司 会員

14. 謝 辞
15. 点 鐘……〈会長〉
16. 閉会宣言

- 13:30 17. 散 会

ゲ ス ト

新入会員予定者 小澤 陽一 様

出 席

会員総数 88名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 81名
欠席 10名 出席率 87.65%
前々回 (2/28) の修正出席率 100%

幹 事 報 告

- 1) 先週、萩田会員の退会により87名になりましたが、本日、稲垣会員の入会により88名となっております。
2) 本日臨時理事会を例会終了後開催することとなりました。突然ではございますが、よろしくお願い致します。
3) 新入会員稲垣俊彦会員につきましては会場委員会に配属とさせていただきます。

副会長あいさつ

私の話 3

霜出 俱弘



本日は太田会長がお休みですので3回目の代理を務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。皆様も私が説明するまでもなくテレビ、新聞等で状況は十分ご存知の通り、11日午後2時46分頃、国内観測史上最大のM9.0震度7の東北地方太平洋地震が起きました。まずはなくなられた方、ゆくえ不明の方、被災されました方々に弔意とお見舞いを申し上げる次第です。

私が子供の頃に体感した大きな地震だけでも3回ほどありますが、60年以上も前のことですのでかすかに記憶にのこっている程度です。改めて今回の状況を知るにつけ日ごろの心構えと行動の大切さを知らされたような気が致しました。

新入会員あいさつ



稲垣 俊彦 会員

氏 名 稲垣 俊彦
生年月日 昭和32年1月29日
推薦者 市川 裕士
職業分類 信用金庫
事業所名 岡崎信用金庫刈谷支店
役職名 支店長
所属委員会 会場委員会

卓 話

ロータリーの原点

前田 孝司 会員



奉仕の理想 (Ideal of Service)

「奉仕の理想」は一体どんな理想なのか？

それは、寄付とかボランティア活動とか、そういう善意の社会奉仕活動か、はたまた「相手の身になって行動すること」でしょうか？

然し、その程度のことなら何も高い会費を払ってロータリーという大組織に加入し、毎週一回、貴重な時間を割いて集まり、

～力むる所は向上奉仕～

などと、大声張り上げ合唱するほどのことでは、ないではありませんか。

現実には違う、ずっと次元の高いものでなければなりません。だからこそ、そういう高い目標に向かって努力する必要がある

～その志を肝に銘ずる為に向上奉仕～

と、事あるごとに唱うのであります。

ロータリーの存立の極性軸の上に立つ理想です。極性軸がどこにあるかといえば、ロータリーが職業人、とりわけ実業人の組織であると言う基本構造を否定しないかぎり、拠って立つ軸足は各人の職業にあるのですから、極性軸となる理想的な奉仕活動は、各人がその職務に於いて、

「He profits most who Service best」

(最もよく奉仕するもの、最も多く報われる)

という一語に集約されるのです。

しかし、現実の経済社会はそうになっていません。「正直者が馬鹿をみる」というのが現実の姿です。

そこで、ロータリーは現実を一步でも二歩でも奉仕するものが報われる理想社会に近づけようとしているのです。これが正に「奉仕の理想」ではないでしょうか。

理想を実現するためには、共鳴してくれる同志を増やさなければなりません。一人では社会の大勢にはかなわないわけで、ロータリーでは

“Fellowship” 「同志」

とって、同じ志をもつ仲間をいいます。多くの同志を持つ為に会員増強は、ロータリーにとって永遠の課題なのです。

まず最初に資質あり、志あり、志を同じくするものの増強ですが、最近では目的を見失って迷走する増強拡大になっています。